北茨城民報
日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
毎週 日曜日 発行

市議団ニュース

ご相談はお気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

ライトアップ夜桜

中郷町石岡地区。いまが盛りで、一見の価値ありです。

水沼ダム

ダム湖底の放射能

「臭いものにフタ」か!?

県から測定拒否の回答

日本共産党市議団が先月、県に提出していた「水沼ダム、小山ダム湖底の放射性物質測定の申入れ」について、このほど回答がありました。

その内容は「現在、環境省において県内の公共用水域における放射性物質モニタリング調査を実施しており、水沼ダム及び小山ダムの上下流地点においても、水質及び底質等のモニタリング調査が実施されています。さらに両ダムの下流で取水されている水道水についても、北茨城市が各浄水場で放射性物質の測定をしているところです。これらのことから、ダム湖底の放射性物質調査を実施する予定はございません」と、市議団の申入れを拒否するものとなっています。

党市議団は「水沼ダム上流の花園川でイワナやヤマメから基準値を超える値が検出され、4月の解禁が延期されている事態を見ても明らかなように、山間部に降り注いだ放射性物質が花園川や大北川を通じて両ダムに蓄積されている可能性は否定できない。早急に湖底の値が高ければ対策を講じるのがダム管理者である県の務めである。測定の拒否は〝臭いものにフタ〟をするやり方で、まったく容認できない。再度、県へ強く調査を要望する」と述べています。

放射能濃度マップ、近く公表

地域指定を受け、国・県と協議中

北茨城市では、放射性物質汚染対処特別措置法にもとづく「汚染状況重点調査地域」指定を申請しました。現在、市の除染計画を作成し、県・国と協議中です。

東電の原発事故による追加放射線量を年間1ミリシーベルト以下におさえるのが基本方針で、空間放射線量が毎時0・23マイクロシーベルトを超えるところが除染の対象地域となります。

担当課では、放射能対策プラザで収集された各戸の測定値データも参考に、市内約1200ヶ所を測定しました。これらの結果から放射能濃度マップを作成し、除染が必要な地域の特定と作業計画の策定がすすめられます。

ただし、汚染土などを保管する仮置き場の選定がむずかしく、じっさいの除染作業には困難も予想されます。

これまで、市管理の施設などで除染作業がおこなわれてきました。基準値は、学校については0・19μシーベルト、ほかの生涯学習施設や管理公園は0・23μシーベルトです。春休みには、関本中、大津小、関南小での除染作業がおこなわれ、学校や乳幼児施設の除染がひとまず終わりました。生涯学習施設については、震災被害の復旧もあわせてすすめられ、順次使用が可能となっています。

また、市が管理する公園については、昨年度中に4ヶ所、滝分公園、五浦第一公園、五浦第二公園、五浦岬公園で実施されました。このうち五浦岬公園では、広い敷地内の園路の除染が難しく、作業方法を検討しながらすすめているとのことです。今年度は20ヶ所が対象施設となっています。

食べる前に検査

学校給食センターで扱う食材の放射能測定が4月から拡充されました。

これまで測定対象は茨城県産品だけでしたが、関東、東北の産品についても測定を始めました。さらに、12月中旬からおこなっていた給食の一食全量検査を、午前中におこなうことで、子どもたちの口に入る前に測定し、トラブル対処できるようになりました。

給食センターで扱う食品の産地表示と放射能測定の結果は、市のホームページで公表されており、これまですべて不検出となっています。

北茨城市

いわき市

新しい放射線検知器

データ表示のくふうを求める

放射線量を測定記録するために、県が市役所前に設置していたモニタリングポストが、これまでの過般式から新しく固定式に切り替えられました。

ところが、これまでとちがって、データが表示されない機種になってしまいました。党市議団では、その場で市民が確認できるように改善することを求めています。

参考までに、右の写真は、お隣いわき市の文化センター前に設置されているモニタリングポストです。ソーラー発電を利用した機種で、数値が電光表示されるようになっています。